

正岡子規の

子規隨筆

坂本雪鳥著拔萃

(三)

近松に就いては、その時代物は脚色いたづらに複雑して少しも自然な處がなく、人物が亦頗る架空的で少しもその性格を現はしてゐないことを論じ、又近松が著しく成功したのは世話物の脚色である。されども、これともその描寫の方法が不完全であることを

言ひ、又近松が著しく成功したのは世話物の脚色である。されども、これともその描寫の方法が不完全であることを

と論結してゐる。

芭蕉に關しては別に芭蕉雜

近松は遂に形式的名文を作

能はざるなり

行以外の文は流暢なる叙事

にかかる少く其他少しして

も影響したる處皆缺點あり

近松は遂に形式的名文を作

能はざるなり

と論結してゐる。

芭鶴や果林はその傑作と雖も今日

より見れば不完全な者が多い

芭鶴の佳句は

に過ぎない。即ち、芭鶴や果

林の著はその傑作と雖も今日

芭鶴の佳句は